

巻 頭 言

一般社団法人日本数学会理事長
石毛 和弘

日本数学会の歩みは、1877年に設立された東京数学会社に始まり、2027年には創立150周年という大きな節目を迎えます。この150年の間に数学の世界は大きく進展し、それを取り巻く環境も大きく様変わりしました。現在、数学は情報通信、金融、医療、さらには人工知能技術といった最先端分野において、理論的な基盤として極めて重要な役割を果たしています。学部初年次で学ぶ線型代数や微分積分から、代数学、幾何学、解析学、さらには応用数学の先端的領域に至るまで、幅広い数学的知見が技術革新を支えており、数学に対する社会的な期待も一層高まりつつあります。

一方で、学会運営を取り巻く環境も、大きく変化してきております。日本数学会は、数学の研究を促進し、その普及を図ることで、学術文化の向上・発展に寄与することを目的として運営されてまいりました。特に近年は、2012年の社団法人から一般社団法人への移行に伴い策定された「公益目的支出計画」に基づき、2022年3月までの10年間にわたり、旧社団法人時代に蓄積された公益法人としての優遇期間中の財産を、公益性の高い目的に活用すべく、積極的な事業運営を展開してまいりました。

しかしながら、この10年間を含め、会費の改定は約30年前を最後に行われておらず、その間の物価上昇や消費税率の引き上げ、さらには事業の拡大等により、事業支出は年々増加し、近年では支出が収入を上回る状態が常態化しておりました。理事会では、事業内容の見直しをはじめとする支出削減策を段階的に講じてまいりましたが、今後は会員数の減少に伴う収入のさらなる減少も見込まれることから、日本数学会として財務計画を見直し、2026年度分の会費より改定することとなりました。あわせて、数学研究を志す若年層の正会員や、初等・中等教育に従事する正会員を対象とした新たな減免制度も創設し、多様な立場の会員が継続的に参画しやすい学会運営の実現を目指しております。

財務計画の見直しにおいては、いくつかの事業の廃止・中止・縮小に加え、刊行物の電子化（印刷物の廃止）、電子投票システムの導入（郵送による投票の廃止）、さらに会員個人ページの開発（新たな会費納入システムの構築を含む）なども検討課題として盛り込まれています。すでに対応を終えたものもあれば、現在検討中のもの、あるいはまだ着手に至っていないものもあり、進捗状況はさまざまです。

前途は決して平坦ではありませんが、理事長としての私の責務は、財務状況の健全化に向けて一步でも着実に前進させていくことにあると考えております。この財務状況の健全化には、会員の皆様のご理解とご協力が不可欠です。どうか今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

会費改定を検討していた際、私の周囲の何人かにご意見を伺ったことがあります。その中には、「現状の会費でも高すぎる」といった厳しい声も含まれていました。様々なご意見を伺う中で、日本数学会はその事業内容や、会員であることの意義や価値を、十分に発信できていないのではないかという思いに至りました。そこで、日本数学会の主な活動を簡単にご紹介させていただきます。

日本数学会の活動の中で最も重要なものの一つは、毎年春に開催される年会および秋の秋季総合分科会であり、これらの場では、数学会会員であればどなたでも講演することができ、議論に自由に参加することができます。こうした自由で開かれた場は、学術的な対話や新たな研究の芽を生み出す基盤となっており、まさに日本数学会の存在意義を体現する場であると考えています。コロナ禍においては、年会・秋季総合分科会ともにオンライン開催を余儀なくされました。オンラインの利便性を実感する一方で、対面での講演や議論の持つ重要性と価値も改めて明らかになったように思います。

日本数学会の重要な活動は、年会や秋季総合分科会の開催にとどまりません。その一つとして挙げられるのが、学術雑誌の刊行です。和文誌として『数学』、『数学メモアール』、および『数学通信』を、欧文誌として Journal of the Mathematical Society of Japan (JMSJ), Japanese Journal of Mathematics (JJM), Advanced Studies in Pure Mathematics (ASPM), および MSJ Memoirs を発行し、国内外における数学研究の発展に継続的に貢献しています。また、学会としての顕彰事業も積極的に行っており、小平賞・春季賞・秋季賞・建部賢弘賞・出版賞・JMSJ 論文賞などを通じて、優れた研究成果や活動を広く顕彰しています。加えて、井上學術賞、猿橋賞、文部科学大臣表彰など、他団体による賞への推薦も積極的に行っています。日本数学会は、国内の関連学会との連携に加え、韓国・台湾との定期的な国際交流をはじめとした国際的なネットワークの構築にも積極的に取り組んでいます。近年は、日本応用数理学会、統計関連学会連合と連携し、「数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会」を開催するほか、一般財団法人数理科学振興会との共同事業にも着手しています。その一環として、アフリカ数理科学研究所 AIMS (African Institute for Mathematical Sciences) への講師派遣制度の充実を図るとともに、「在外研究奨励フェロー」制度を創設しました。

日本数学会では、上記のような諸活動を継続・発展させるとともに、新たな財務計画に基づき事業の精査を進め、持続可能な運営体制の確立に向けた改革に取り組んでおります。一方で、日本数学会の多くの活動は、会員の皆様による自発的なご尽力、すなわちボランティア精神によって支えられています。日本数学会の未来は、まさに会員一人ひとりの力にかかっていると断言して過言ではありません。今後とも、皆様の温かいご理解とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。